

2. 集合住宅居住者の買い物環境

「現代の水運び」について問う前に、回答者の日常の買い物条件について把握する必要がある。

「あなたは食品や日用品などを普段どこでお買いになりますか」と質問した結果が次の通りである。

表 9.食品や日用品等の普段の購入場所（複数回答）

	40～49歳(n=100)		50～59歳(n=100)		60～69歳(n=100)		70～79歳(n=86)		総計(n=386)	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
スーパー	99	99.0%	97	97.0%	97	97.0%	84	97.7%	377	97.7%
ドラッグストア	67	67.0%	62	62.0%	54	54.0%	43	50.0%	226	58.5%
コンビニエンスストア	50	50.0%	59	59.0%	34	34.0%	32	37.2%	175	45.3%
個人商店	22	22.0%	19	19.0%	17	17.0%	25	29.1%	83	21.5%
移動販売	5	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	1.3%
宅配(生協など)	15	15.0%	26	26.0%	24	24.0%	19	22.1%	84	21.8%
通信販売(テレビショッピング、ネット通販など)	43	43.0%	51	51.0%	44	44.0%	29	33.7%	167	43.3%
その他	4	4.0%	4	4.0%	1	1.0%	4	4.7%	13	3.4%

総計で見ると「スーパー」が97.7%、「ドラッグストア」58.5%、「コンビニエンスストア」45.3%と続いていることがわかる。注目すべきは、コンビニエンスストアと同じ程度の利用として「通信販売（テレビショッピング、ネット通販等）」が43.3%、また「宅配（生協等）」も21.8%であることである。最寄品を買いに行くのではなく、持ってきてもらう経験をしている人が4割存在していることがわかる。

年齢別に見ると「スーパー」はどの年代も97%以上が利用していて、いわば買い物のインフラとして機能していることがわかる。「ドラッグストア」を最も利用しているのは40歳代で67.0%であり、60歳代の54.0%、70歳代の50.0%とばらつきがある。「コンビニエンスストア」を最も利用しているのは50歳代の59.0%で、60歳代の34.0%、70歳代の37.2%との間に差があることがわかる。「個人商店」は全般に利用率が低いが、最も利用しているのは70歳代で29.1%、次に40歳代の22.0%と続き、なぜか最も低いのは60歳代の17.0%である。

次に、こうした食品や日用品などを普段購入する場所として「最もよくお買いになるのはどこですか」と質問した結果が次の通りである。

表 10.食品や日用品等を普段、最もよく購入する場所（男女別）

	男性		女性		総計	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
スーパー	169	84.5%	165	88.7%	334	86.5%
ドラッグストア	2	1.0%	1	0.5%	3	0.8%
コンビニエンスストア	17	8.5%	1	0.5%	18	4.7%
個人商店	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
移動販売	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
宅配(生協など)	2	1.0%	13	7.0%	15	3.9%
通信販売(テレビショッピング、ネット通販など)	8	4.0%	4	2.2%	12	3.1%
その他	1	0.5%	2	1.1%	3	0.8%
総計	200		186		386	

最もよく購入する場所は圧倒的に「スーパー」で、これは男女別でも年齢別でも差はない。2番目は、男性の場合「コンビニエンスストア」の8.5%と続くが、女性の場合は「宅配（生協等）」と、少ない回答数ながら男女の違いが現れている。

また、「宅配（生協等）」と「通信販売（テレビショッピング、ネット通販等）」を合わせると7.0%となり、「コンビニエンスストア」の4.7%を越えている。

こうした普段の買い物を行うのは自分自身なのだろうか。それとも、同居人（配偶者、父母、子供等）が行うのだろうか。最もよく購入する場所について、「そこで買い物をするのは、普段どなたですか」と質問した結果が次の通りである。

表 11.年齢別購入者

	40～49歳		50～59歳		60～69歳		70～79歳		総計	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
自分	80	80.0%	75	75.0%	78	78.0%	53	61.6%	286	74.1%
同居人	20	20.0%	25	25.0%	22	22.0%	33	38.4%	100	25.9%
総計	100		100		100		86		386	

40歳代～60歳代はおおよそ75～80%が自分自身で買い物を行っている。しかし、70歳代となると61.6%と下がり、同居人に任せる回答者が38.4%に増えていることがわかる。

回答者は、こうした買い物に不便さは感じているのだろうか。最もよく購入する場所について「あなたはその店舗での買い物に不便さは感じますか」と質問した結果が次の通りである。

表 12.購入場所での不便意識

	40～49歳		50～59歳		60～69歳		70～79歳		総計	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
不便さを感じる	19	19.0%	26	26.0%	10	10.0%	9	10.5%	64	16.6%
不便さを感じない	81	81.0%	74	74.0%	90	90.0%	77	89.5%	322	83.4%
総計	100		100		100		86		386	

回答者全体の86.5%が最もよく買う場所としてスーパーを利用しているが（表 10）、回答者全体を年齢別で見ても、「その店舗での買い物に不便を感じる」のは16.6%にすぎない。年齢別に見ると50歳代のみ26.0%となっているが、60歳代以上は最もよく買う店舗での買い物に不便を感じているのは10.0%にすぎない。回答者が高齢なほど、買い物に不便を感じていると予想していたが、実際には1割程度にすぎないことがわかる。

40歳代、50歳代の方が「不便」と答える回答率が高い。これは「不便さ」の意味が異なるのかもしれない。店までの距離、自宅周囲の店舗数、店舗毎の商品数、宅配や通販等における発注から納品までにかかる時間、商品の全般的な値頃感等、様々な不便感が存在すると思われる。

いずれにせよ、都内に居住する40歳～79歳の集合住宅居住者の中で、普段最もよく購入する場所での買い物に不便を感じているのは16.6%という結果であった。